

2019年2月28日
 三井化学株式会社

三井化学、ESG/SDGs 評価型シンジケート・ローンで資金調達を実施

三井化学株式会社（本社：港区、代表取締役社長：淡輪 敏）は、この度、株式会社三井住友銀行（本社：千代田区、頭取 CEO：高島 誠。以下、SMBC）が提供する「ESG/SDGs 評価シンジケーション・ローン」を通じて、計 200 億円の資金調達を実施致しました。本ローンは、SMBC と株式会社日本総合研究所（本社：品川区、代表取締役：洲崎 正弘）が作成した基準に基づき、顧客の ESG や SDGs の取り組みや情報開示の状況を評価する金融商品であり、当社の ESG/SDGs 評価結果に賛同いただいた金融機関によって組成されています。

今回、当社の取り組みは、環境(E)、社会(S)及びガバナンス(G)の各項目について非常に高い水準であると判断され、サステナビリティに向けた企業経営において、大変優れた取り組みと情報開示を実施しているとの評価を受けました。

■ 主な評価のポイント

E (環境)	自社の事業活動に伴う主な環境負荷を、グループ会社も含めて把握。特に CO2 排出量に関しては、Scope1,2 だけでなく Scope3 も含めて把握しており、排出削減に向けた具体的な取り組みを実施している。また、製品ライフサイクルの各段階で環境負荷削減に貢献する Blue Value [®] 製品の提供を通じて、持続可能な社会の実現に貢献している。
S (社会)	独自の QOL 向上評価指標 Rose Value TM Index を策定し、「少子高齢化への対応」「健康寿命の延長」「食料問題への対応」等の社会課題に貢献する製品・サービスを Rose Value TM 製品として認定する制度を構築している。
G (ガバナンス)	事業活動を通じて社会課題を解決する為、経済軸・環境軸・社会軸から成る 3 軸経営を深化させ、長期的視点に立った経営を実践している。
SDGs	Blue Value [®] 製品や Rose Value TM 製品等の社会課題解決に資する製品を開発し、その普及を通じてユーザーの CO2 排出量抑制等を実現し、SDGs が示す目標の達成に貢献している。

三井化学は、ESG 要素の経営・戦略への組み込みを加速するとともに、ESG 情報開示を強化するため、2018 年 4 月に ESG 推進室を新設しました。「環境と調和した共生社会」、「健康安心な長寿社会」の実現に向けて、2025 長期経営計画の目標に環境貢献価値 Blue Value[®]、QOL 向上価値 Rose ValueTMの拡大を掲げて事業活動を通じた社会課題解決に積極的に取り組むとともに、社会と当社グループの持続的発展を目指してまいります。

三井化学グループのサステナビリティについて

<https://www.mitsuichem.com/jp/sustainability/index.htm>

■ シンジケート・ローンの概要

契約締結日	2019年2月28日
アレンジャー	三井住友銀行
エージェント	三井住友銀行
組成金額	200 億円
貸出人	足利銀行、京葉銀行、静岡銀行、七十七銀行、十六銀行、常陽銀行、全国信用協同組合連合会、大同生命保険、千葉銀行、千葉興業銀行、富山銀行、八十二銀行、北洋銀行、武蔵野銀行、もみじ銀行、山口銀行、山口県信用農業協同組合連合会、山梨中央銀行、その他 2 金融機関

以上

<本件リリースに関するお問い合わせ先>

三井化学株式会社 コーポレートコミュニケーション部 (TEL : 03-6253-2100)

<当社グループの ESG、SDGs への取り組みに関するお問合せ先>

三井化学株式会社 ESG 推進室 (TEL : 03-6253-3000)